



楽しかった

# 旅の思い出

卒業宿泊バス旅行編 琵琶湖・芦原温泉・三方五湖  
2006年8月22日～23日

神戸市シルバーカレッジ生活環境コース十一期



# 神戸市シルバーカレッジ 修学バス旅行 2006年8月22日～23日

## 琵琶湖・芦原温泉・三方五湖・万徳寺の旅



琵琶湖の美しい風景を堪能。琵琶湖のバスは、山多、オビロギは、津和野市「琵琶湖博物館」



「琵琶湖博物館」は、多くの市民に公開される、水辺の近代化展示館が、



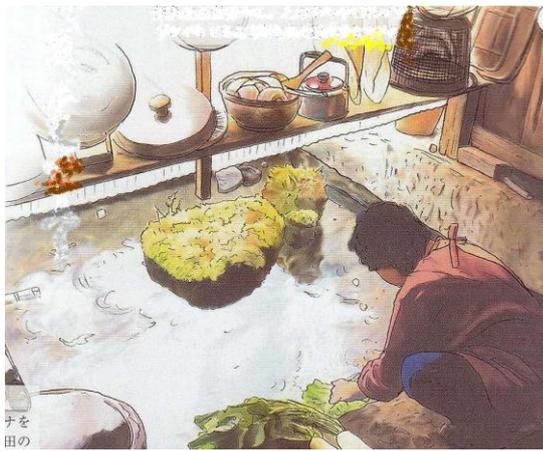
床に張られた「琵琶湖」の航空写真。ちょっと宇宙飛行士になった気分...



昔の農家の生活を再現しているコーナーは、我々世代には懐かしく思い出されるものが多くあった。

琵琶湖の水を汚さないための利用方法についても、みんながちゃんとそれを守っていたという。不便さの中に今は失ってしまった「ころの豊かさ」があったのだろうが、当時は誰も「豊かさ」として実感している余裕はなかったということだろう。





カタバと呼ばれた場所は、川の水を集落まで誘い込み、さらに家の中まで引き込む。ここには水に関わる生活道具はすべて揃っている。カタバでは湧き水も利用し、飲用と洗物とは水路もわかれていたという。この水の中にはゴリやコイなどさまざまな生き物も生息していたらしい。  
「あのころに戻りたい...もう戻れない...」



琵琶湖に生息するたくさんの魚たちと会ってきた。

魚たちの目からは、我々はこのように見られている。  
「あんたらまじめに勉強し〜や...」



約 250 万年前の琵琶湖周辺の森林と動物たちとか。

昭和 30 年代からの生活をまとめた展示物には郷愁も誘われた。圧巻だった。



さあ次は、草津市立『水生植物園 みずの森』を訪ねよう



オノノのワコワコノノが咲いてはははは



ワコワコノノの池にははははがははは



これで1日目のお勉強はおしまい！ さあ“あわら温泉”へ行こうぜ・・・

### あわら温泉の歴史

その昔、芦原温泉中心部の温泉地帯は低湿な沼地でした。明治16年に町内堀江十楽のひとりの農民が灌漑用の水を求めて水田に井戸を掘ったところ、約80度の温泉が湧出したのが始まりです。翌明治17年には何軒かの温泉宿が開業し湯治客を泊めるようになり、明治45年に日国鉄三国線が開通して以降、温泉街として発展していきました。その後、福井大震災(昭和23年)、芦原大火(昭和31年)など度重なる震災を乗り越え今日に至っております。



温泉街を歩き交う人々(昭和30年)

昭和 29 年に宿泊したことがあるが、そうそう当時はこんな感じだったなあ...



宿泊した「ホテル美松」



お疲れさんでした 乾杯！



華やかだった“トトサクラハワイアン”



素晴らしいかった“トトイコマンテ〜”

色付“と”登場！た“ゆんさん、喜頭VII？”

## 2日目は三方五湖めぐりからスタート



さあ垂れ込むぞ〜



タタ子湖と水日湖の間の浦目川

かかたかお行儀よくします



展望台から眺めた美方五湖

## 万徳寺にも立ち寄りました・・・



解体修復工事が始まっていた書院で説法を聴講。



アキラが本堂

「人は支え、支えられながら生きている...」「みなさんが健康だからここ



神戸市シルバーカレッジ生活環境コース3年生  
修学バス旅行 2006年8月22-23日

